

施策	44	交通機関と道路の充実					政策	4	暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり
施策主管課		土木課	課長名	田見 進	内線	2720	政策担当部長名		建設部長 条原 和代
施策関係課名		リニア推進課・国県関連事業課・建設管理課							
重点施策		関連計画	飯田市生活交通ネットワーク計画・橋梁長寿命化修繕計画						

1 施策の目的		
目的	対象	市民、市内滞在者、財産、事業者
	意図	便利で安全に移動ができる

2 現状把握		
(1) 対象指標、成果指標の状況		

対象指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	見込み 28年度
①	住民人口	人	105,691	105,335	104,757	103,947		102,000
	事業所数 (H21経済センサス基礎調査)	箇所	6,818	-	-	-		6,800
	道路延長(国県市道) (長野県土木部道路現況より平成24年4月1日現在)	km	1,971.5	1,973.4	1,971.2	1,975.5		1,980.0
成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	目標 28年度
※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理								
①	市内の移動に不便を感じる市民の割合 (道路)(市民意識調査)	%	46.4	44.7	48.9	45.0		40.0
②	市内の移動に不便を感じる市民の割合 (交通機関)(市民意識調査)	%	39.0	38.5	45.6	44.2		35.0

(2) 成果向上に向けての役割分担								
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法 と単位		23年度 実績	24年度	25年度	目標 28年度
行政	市(国・県)	①市民バス等による利便性の向上 ②道路整備 (維持管理等も含む) *道路に歩道、整備に安全管理の役割も含まれる。	①市民バス、乗り合いタクシーの利用者数【人】 ②国県道を含めた幹線道路の整備率【%】(整備延長/路線の総延長) ③歩道延長【m】 ④橋梁耐震整備数【橋】(橋梁長寿命化修繕計画による修繕橋梁を含む)	①	319,771	336,752		329,000
				②	44.0	44.3		46.4
				③	220,876	223,152		224,562
				④	0	0		10
主体		役割分担	ムトス指標と把握方法と単位		役割発揮の特記事項			
市民等	個 人	生活道路を大切にする (清掃・除雪・道作り・通報など行う)	家のまわりの道路清掃・除雪等をしている市民の割合		・生活道路の維持管理については、約8割の地域の皆様が実施され交通の安全確保に協力いただいている。			
	企 業	交通機関の運行と安全確保	・バス路線数・バスの運行本数・利用者数 ・JR飯田線の運行本数・利用者数		・バス(9路線)の他、乗合タクシー(13路線)を導入し、利用は徐々に増加している。 ・鉄道の利用者は減少傾向だが、運行本数は維持されている。			
	地域的団体 (まちづくり委員会・道路愛護会等)	定期的な道路愛護 (清掃・補修)	実施回数・実施人数		・各地区で道作り、美化活動等の作業が年2回程度行われている状況から、実施回数約40回/年、実施人数約6万人/年による地域活動が実施され道路愛護に協力をいただいている。			

3. 平成24年度の評価結果	
(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)	(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

☐ 計画どおり取り組めた

☐ おおむね計画どおり

☐ あまり取り組めなかった

☐ 達成できなかった

☐ 進んだ

☐ ある程度進んだ

☐ あまり進まなかった

☐ 進まなかった

4 平成24年度の取組概要と評価(成果や課題、その要因)

【施策全体の評価】

- ・市道の新設・改良については、道路評価による計画的・効率的な事業実施を図り交通の安全・安心を確保した。維持管理については、新たな維持補修工事の発注・契約方法を策定し効率化やコスト縮減を図る。橋梁の維持管理については、長寿命化修繕計画を策定し、計画的・効率的な修繕工事の実施を図る。三遠南信自動車道を始めとする国道・県道の整備については、予定通り順調な進捗が図られている。公共交通については、利用促進や利便性の向上を図るため、バス及び乗合タクシーの回数券の見直しや導入を実施し利用者が増加した。
- ・施策中の各事務事業の実績を総合的に評価し、概ね計画通り目標を達成していると判断した。

【事務事業群テーマ別の評価】

<道路の新設・改良>

- ・社会資本整備総合交付金事業により、市道1-41号久米線他4路線の工事・補償・設計等を行った。
- ・幹線道路改良事業により、幹線道路31路線、市道改良事業により、生活道路98路線の工事・補償・設計等を行った。
- ・潰地登記・道路台帳補正事業により、各種道路改良事業に伴う登記業務や台帳補正業務を行った。
- ・各種道路改良事業により、道路環境の向上を図り、交通の安全・安心を確保した。
- ・各種企業・事業者等から産業道路の要望や各地域から生活道路の改良要望が多くあるが、限られた予算での対応に苦慮している。
- ・リニア中央新幹線に係わる周辺地域のインフラ整備において、道路整備の考え方や手法の検討が必要である。

<道路の維持管理>

- ・社会資本整備総合交付金事業により、市道1-11号文化会館線の修繕工事を行った。
- ・道路補修事業及び道路舗装補修事業により、787箇所において道路構造物や道路舗装の補修工事及び住民自ら行う補修工事への資材支給を行った。
- ・道路維持管理事業により、39箇所において側溝等の清掃や支障木の除去を行った。また、街路管理事業により、街路樹の剪定や病害虫駆除を市内一円で行った。
- ・幹線道路除雪事業により、除雪指定路線192路線において除雪業務及び融雪業務を行った。
- ・各種道路維持管理事業により、道路環境の向上を図り、交通の安全・安心を確保した。
- ・道路施設の老朽化による維持補修費の増加が予想される。維持補修費の確保と効率的な事業実施によるコスト縮減が必要である。

<橋りょうの維持管理>

- ・社会資本整備総合交付金事業により、市道の重要路線に架かる114橋の橋梁長寿命化修繕計画の策定を行った。
- ・橋りょう補修事業により、7橋の床版、桁、橋脚、橋台、目地等の補修工事を行った。
- ・橋梁の維持補修により、橋梁の安全性の向上を図り、交通の安全・安心を確保した。
- ・飯田市で管理する橋梁の多くが耐用年数を向かえており老朽化が進んでいる。今後、計画的な架け替えと維持補修による長寿命化を検討する。

<国・県による事業の促進>

- ・三遠南信自動車道飯喬道路2工区は全線で工事を施工しており、平成27年度に天龍峡ICから(仮)龍江IC間の供用が予定されている。また、平成24年度には青崩峠道路について、静岡県浜松市側で本線に着工された。
- ・羽場大瀬木線は平成25年度秋に一部が開通し、県道青木東鼎線上山工区においても改良工事が実施中で、市街地へのアクセス道路が改善される。
- ・各種団体や連絡協議会等と連携し関係機関に要望、提言活動を行い予算確保に努め、三遠南信自動車道を始め国県道について改良工事を進めたい。
- ・市民等から、三遠南信自動車道の早期開通や国県道の改良要望がある。

<公共交通機関の運行支援>

- ・平成24年4月からバス回数券を見直す(高齢者設定等)とともに、乗合タクシーにも回数券を導入した。また、乗合タクシー時刻表を、高齢者や障害者等が利用しやすいように見直しを行った。
- ・高校通学の利便性を図るため、高校懇談会を開催し、ダイヤへの要望等の聞き取りを行った。

5 上記を踏まえて、今後は、どのような対策を実施していきますか

<道路の新設・改良>

- ・国庫補助事業対象路線については、市道評価システムによる道路評価を行い計画的な事業実施を図ると共に、国の補助金制度を注視していく。
- ・飯田市単独事業対象路線については、地域状況や道路状況等を精査し緊急性・必要性・コスト性を考慮し計画的・効率的な事業実施を図る。
- ・リニア中央新幹線の動向を注視し、道路ネットワーク構築等の検討を行う。

<道路の維持管理>

- ・維持補修工事の効率化・透明化・コスト縮減を目指し、平成25年度より新たな発注方法及び契約方法を導入する。
- ・平成25年度に道路施設の総点検(橋梁を除く)を行い、道路舗装・トンネル・道路構造物の状況を把握する。このデータを基に短中長期の維持補修計画を策定し、計画的・効率的な維持補修工事の実施による維持補修費用の平準化と縮減を図る。

<橋りょうの維持管理>

- ・平成24年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁の修繕工事及び耐震工事を計画的・効率的に実施し、橋梁に係わるコスト縮減を図る。
- ・管理する橋梁を定期的に調査し、常に状況を把握することで大規模な修繕を必要とする前にメンテナンスを行うことでコスト縮減と橋梁の安全性を確保する。

<国・県による事業の促進>

- ・三遠南信自動車道を始め国県道を含めた基幹道路の整備推進と要望活動を展開する。
- ・国の動向を注視しながら、予算確保に向けた活動を行う。

<公共交通機関の運行支援>

- ・平成25年4月からバス運賃を、わかりやすく手頃な運賃(10円単位の距離従量制→100円単位の地区別エリア制)に改定し、あわせて定期券も見直した。また、長姫高校と工業高校の統合を機に高校生が通学しやすいダイヤに変更した。
- ・JR飯田線の乗り継ぎバスの運行実験等、JR飯田線とバスの一体的利用促進を行い、公共交通全体の利便性を高めていく。